

お祖師さまを巡る人々

第8回



誕降ご大士蓮日祖高 800年慶讃

【四條金吾】さんは、主君（自分が仕えている主人）の江間光時に『御題目のご信心』をすすめたんだ。でも、主君の光時は、とても怒り出してしまっただ。それは、光時がとても熱心な念仏の信者だったからなんだ。この時から光時は「金吾」さんに、いろいろなイジワルをするようになるんだ。今回は、「金吾さんの大ピンチ」のお話だよ。

四條金吾

③

【四條金吾】さんは、自分の主君の江間光時に幸せになつてもらいたいと願ひ、御題目のご信心をすすめたんだね。

だけど江間家はもともと念仏の信者で、鎌倉にある長楽寺という念仏のお寺は、江間家が建てたものといわれているんだよ。

そんな熱心な念仏信者である光時に、御題目のご信心をすすめたものだから、【金吾】さんは、しだいに嫌われイジメられるようになってしまったんだね。

お祖師さまは、『良いことをすすめたのだから嫌われても気にしてはいけません。どんなことがあつても我慢ですよ。そして、ご信心をけつて離してはいけませんよ』と【金吾】さんを励まされるんだ。



武術だけでなく医術にも卓越していた四條金吾は主君・江間光時の病氣の際、まごころ込めて治療にあたり、その結果、主君の病氣は回復し機嫌も次第に軟化。主従関係も再び強固なものに

金吾さん、大ピンチに！

光時の怒りはだんだんひどくなり、『御題目のご信心を捨てるか、それとも仕事をやめるか、どちらかにしなさい』と【金吾】さんにとても強く迫ってきたんだ。

【金吾】さんは『ご信心はどんなことがあつても離しません。また、お世話になつた光時さまと離れるのも嫌ですから仕事もやめません』とハッキリ答えたんだよ。

すると、光時はとても怒りだし、『金吾】さんの持つていた【所領】（主君からいただいた土地）を全部取り上げてしまったんだ。これは【金吾】さんの給料がなくなり、家族のみんなが生活できなくなつてしまう大変なことなんだよ。

大ピンチの【金吾】さんに、お祖師さま



内船寺の小梵鐘
内船寺の境内地には、金吾伝来の漢方薬の調合方法が刻まれている「小梵鐘」が、寺宝として伝わっている

は、『誠意（ウソいつわりのない心）が主君に伝わり、ご利益がいただけるように、しっかりと御題目をお唱えしなさい』と慈悲（苦しみを取り除く）を与えたいという相手（苦しむ心）あふれる言葉で励ましてくださったんだね。

【金吾】さんは、お祖師さまの言葉を守り、この大ピンチから脱出（危険な場所やよくない状態から抜け出すこと）出来るように、まごころを込めて御題目をお唱えし、お願いしたんだ。

すると、光時が突然とても重い病氣にかかつてしまっただ。そしてなんと、【金吾】さんに、その病氣を治して欲しいとお願ひにきたんだ。【金吾】さんは、立派な武士であつただけど、とても立派なお医者さんでもあつただよ。本当に凄（すご）い人だね。

【金吾】さんの治療のおかげで光時はすっかり元気になるんだ。とても喜んだ光時は、取り上げた【所領】を返したただけでなく、新たな【所領】も与えたんだよ。そして、前のように【金吾】さんを信頼し大事にしてくれるようになったんだね。

私たちのご信心は、どんなことが起こつても『お祖師さまの言葉を守り、ご信心を離さない』ということがとても大事なんだね。



正住山 内船寺
四條金吾が建治3年（1277）、邸内に三間四面の持仏堂を建立したのが内船寺のはじまり。主君の光時の大病を平癒させた功によって、内船の地（山梨県南巨摩郡南部町）を与えられたといわれている



四條金吾夫妻の墓（内船寺の本堂裏手）
四條金吾は正安2年（1300）3月15日、夫人の日眼女は3年後の嘉元元年（1303）3月15日に亡くなったといわれている